

よろず支援拠点だより <91>

成長の限界に環境経営を

わかやま新報の読者の皆さま、こんにちは！ 和歌山

県よろず支援拠点コーディネーターの鹿島です。

スイスに本部を置く頭脳集団のローマクラブが1972年、資源と地球の有限性に着目して取りまとめた研究報告書『成長の限界』を発表し、「2030年ごろ世界は『成長の限界』に達すると、私たち人類に警鐘を鳴らしました。

具体的には、人口の爆発によって世界人口が2030年には85億人まで増加する一方、天然資源が減少し、2070年ごろに枯渇。一人当たりの食糧・工業生産も、2020年ごろから低下

し始めるということです。

現在、世界が新型コロナウイルス感染症の渦中にあり、人類の「成長の限界」を感じざるを得ません。地球環境を変えてきた人類は、大自然の調和を崩し、炭酸ガスなど温室効果ガスによる温暖化、異常気象、大規模災害や生態系の破壊に直面しています。

このような人類の危機に、「しなやかな復元力(レジリエンス)」、「持続可能性(サステナビリティ)」に向けた世界的な取り組みが始まりました。2030年目標の「SDGs」・「パリ協定」、「2050年カーボンニュートラル」といわれる脱炭素(実質カーボンゼロ)など。

日本も、2030年の温室効果ガス目標の46%削減に向けて、太陽光などの再生可能エネルギー大幅導入の他、40年以上稼働し、休止している原発の再稼働を始めようと取り組んでいます。

「環境経営」は、私たちの生活のみならず、企業が省エネや省資源に取り組む、コストを下げ、「環境負荷の削減と同時に企業の持続的発展」を図るものです。

省エネの設備・工程の変更、資材ロスや商品の不良率削減、環境・健康に優しい商品を目指します。

政府も「2050年カーボンニュートラル」を実現するため、炭酸ガスの使用・排出に応じた炭素税導入・ゼロカーボンシティ支援や、省

エネ・省資源・脱炭素の製品・工程・設備への補助金提供、地域金融支援などの大胆な政策を打ち出していますので、和歌山県よろず支援拠点も、中小企業や小規模事業者の皆さまに活用支援をしてまいります。

和歌山県よろず支援拠点
和歌山市本町二丁目1番地
フォルテワジマ6階
URL <http://yorozu.yarukiouendan.or.jp/>
TEL 073・433・3100

